

文学部 / 総合人文学科 / 国語国文学専修

新海誠監督作品にみる
「デジタル時代の映像文学」を探る



『君の名は。』の大ヒットは、アニメーション監督・新海誠の名前を世界に広めました。新海監督のアニメーションは、そのストーリーだけでなく鮮烈な映像美、背景美術の美しさや光の使い方、音楽と映像の合わせ方の手法なども評価されています。新たな表現方法で新しい文学を完成させた作品の世界を説き明かします。

古典文法から日本語の変化を考えよう

多くの人が高校で平安時代を中心とした古典の文法を学んでいますが。最初に触れたときは平安時代と現代のことばは、全く別のように思えるかもしれません。しかし、これらは確実につながっています。本講義では、平安時代と現代のことばのつながりを考え、日本語の変化について考えていきます。

人間の尊厳



人間の尊厳ということばは、残念ながら日本にはまだ十分に根づいているとは言えません。自国の過去—ナチスによる強制人体実験、障がい者の安楽死、ホロコースト—への反省から、移民を積極的に受け入れる国となったドイツの話や学びながら、人間の尊厳という考えが、どのような意味を持つか、これから日本のとりくむべき課題をお話します。

古代ギリシアの人間観

古典作品にはさまざまな人間理解が表現されており、現代の人間観を再考するための材料になります。本講義では、ソフォクレスの悲劇『オイディプス王』やプラトンの対話篇『饗宴』などの古代ギリシアの古典作品を読み解きながら、そこに見られる興味深い人間観について考えます。

フランス演劇の楽しさ

現代の日本人にとって、フランス演劇とは、ほとんど馴染みのない文芸ジャンルです。しかし、フランスの悲劇も、喜劇も、古典劇も現代劇も、実は尽きせぬ魅力に満ちています。短時間でフランス演劇の全容を語ることはできないので、本講義では、いかにフランスのドラマというものが「奇妙なもの」であるか、「実験的なもの」であるかという点を中心に紹介します。

半分英語・半分ドイツ語
— 欽定英訳聖書を読む

2年生以上

約400年前、シェークスピアと同時代に書かれた欽定英訳聖書。語彙は英語ですが、文法は半分ドイツ語といってもいいくらいです。本講義ではドイツ語とはどのような言語かを感じてもらおうと同時に、現代英語との違いに、変貌する英語を感じてもらいます。

境界の民俗

私たちは、目には見えない意識の上で、境界を認識して暮らしています。昼と夜、一年の終わりと始まりなどの境界の時間や橋や辻などの境界の場所は、異界という私たちの住む所とは別の世界と深く関わりがあるようです。それらの事例を紹介します。

文学部 / 総合人文学科 / 哲学専修

日本近現代文学における戦中・戦後



明治時代以降の日本近現代文学は、激動の時代を経て形成されてきました。そのような時代を背景として近現代文学は、人類の負の遺産である戦争そのものや、戦後のさまざまな矛盾に満ちた社会を描いてきました。それらの文学作品を鑑賞し、平和の意味を考えます。

脳死はひとの死か



「脳死はどのようにして起こるか」をわかりやすく説明したうえで、脳死をひとの死とする意見と反対意見の、それぞれの根拠を説明します。考える楽しさを高校生に味わってもらい、科学と倫理の違い、生命や人間とは何かに思いをはせてもらえればと思います。

文学部 / 総合人文学科 / ヨーロッパ文化専修

マルティン・ルターとその時代

宗教改革者マルティン・ルターが関わった仲間や敵対者、さらにはルターゆかりの町を紹介しながら、キリスト教が分裂する激動の時代を考察します。また、16世紀当時、発明されて間もない活版印刷術がどのように利用されたかについても言及します。

大学に行く意味って何だろう？
— 社会における大学の役割



皆さんは大学に進学することを当たり前だと思っていませんか？「なぜ大学に行かないといけないの？」「大学は何のためにあるの？」と考えたことはありますか？大学という制度を世界で初めて作ったヨーロッパを例に、社会における大学の役割と大学に進学することの意味を考えてみましょう。

文学部 / 総合人文学科 / 日本史・文化遺産学専修

屏風絵から探る都市とくらし

江戸時代の都市では、人々はどのような住居に住み、どのような生業を営み、子供たちはどのような遊びをしていたのでしょうか。にぎわう港湾都市を描いた屏風絵を手がかりに、浮世絵、古文書、出土遺物などを関連させながら、その様子を読み解いていきます。

関大の知にふれる

妖怪の歴史 -天狗と内乱-

日本中世において、種々の日記、説話にみえる天狗の姿を通じて、人々が妖怪をどう作り上げていったかを検討します。また、当時の人々が世の中の変動(内乱)を、どう考え対処していったかをみていきます。

チベットにおける転生化身相続について

2025年7月、チベットの高僧ダライ・ラマ14世は、自身の死後、チベットの伝統に則って生まれ変わることを改めて明言しました。世界的に大きく報じられたこの声明ですが、能動的に「生まれ変わる」とはどういう事でしょうか。また、「ダライ・ラマ」とはどういう存在なのでしょう。本講義では、声明の背景にあるチベットの歴史と思想を解説します。

ルイ14世時代のヴェルサイユ宮廷

ルイ14世の治世(1643-1715)は、ヴェルサイユ宮殿に宮廷が定住するようになり、数千人もの人々が暮らす「宮廷社会」が形成されました。本講義では、ヴェルサイユ宮廷を構成した人々の暮らしや仕事について、同時代史料に依拠しながら、お話しします。

『キングダム』と始皇帝

世界史

漫画や映画で有名になった『キングダム』。その主人公の一人は、秦の始皇帝です。本講義では、始皇帝の実際の姿、秦が中国をはじめて統一できた理由、またその秦がわずか15年で滅亡した原因などに視点をあて、始皇帝と秦の歴史を解き明かしていきます。

スイス・アルプス観光の歴史

世界史



児童文学『ハイジ』の舞台であるスイス・アルプスは世界的に有名な観光地ですが、18世紀まで南北をつなぐ通り道に過ぎず、悪魔の棲む場所として恐れられていました。本講義では、アルプスが通過地点から旅行の目的地へと変貌していく歴史を解説します。

初期イスラム史における5つの内乱

世界史探究

預言者ムハンマド死後のイスラム社会は5つの内乱、すなわちクライシュ族内の権力闘争を経て、ようやく現在のイスラム教の原型が定まります。こうした初期イスラム史の流れを、各内乱の要因と経過、そして結果を示しつつ、論じます。

ビザンツ帝国の宦官

本講義は、ローマ帝国の後継として4-15世紀に東地中海周辺地域を支配したビザンツ帝国の歴史について学ぶものです。その中でも、当時帝国社会に広く存在していた宦官(去勢された男性)を取り上げ、彼らの政治的・社会的役割について概観します。

バビロンの街角から



紀元前6世紀のバビロニアを舞台に、SDGsの観点から以下の3点について論じます。(1)バビロニア都市民はどのような家に住んでいたか(「住み続けられるまちづくりを」、「安全な水とトイレを世界中に」と関連)。(2)貧しい人々の生活は守られていたか(「貧困をなくそう」)。(3)治安の問題。争いや暴力がどのように扱われていたか(「平和と公正をすべての人に」)。

自然と災害

地学または地理

自然の営みはあくまでも自然ですが、そこに人の暮らしがあるとたまたま災害になってしまいます。その話題についてお話しします。

災害と暮らし

地学または地理

災害を受ける所では、その時は大変ですが、長い目で見ると人の暮らしに役立つこともあります。その話題についてお話しします。

買い物弱者支援の地理学



買い物弱者はどのような人々なのか、そして、どのような地域に住んでいて、どのような状況下に置かれているのか、地理学的に解説します。特に、過疎地域など買い物先から離れている地域の高齢者について説明し、移動販売車など支援の可能性について解説します。

地域の中のコンビニ

コンビニは場所、地域によって売れるものが異なります。同じタイプの店舗でも地域によって果たす役割が異なるので、地理学的アプローチの研究が可能です。コンビニのビジネスモデルを説明するとともに、地域市場の中でのコンビニのあり方について解説します。

地理学からみるベトナム

最近、日本に住む外国人の数が増えています。なかでも急増しているのがベトナム人で、その数は60万人を超えています。彼らはどのような人々で、ベトナムはどのような場所なのか、なぜ日本を目指すのか。地理学的な視点から説明します。

文学部
総合人文学科
世界史・地理学専修

魔除け石の伝播を地理学的にみる

石敢當と呼ばれる魔除け石は中国発祥です。この石はアジア各地への伝播の過程で土地ごとに形態や意味が変化し受け入れられていきます。大学で学ぶ地理学的な視点を紹介しつつ、文化がいかに伝播・変化していくかを講義します。

文学部
総合人文学科
教育文化専修

図書館の仕事って何だ？（図書館情報学への招待）：「知」のサポーター「Librarian」



図書館は、「本」「情報」「サービス」を提供する社会的な機関です。本講義では、「図書館に関わる研究」＝「図書館情報学」を紹介しながら、図書館の社会的使命と、「知」のサポーターであるライブラリアン(司書)の意義について考えてみます。

文学部
総合人文学科
初等教育学専修

小学校における子どもの学び



小学校における授業に関わる事例を紹介しながら、子どもの学びを検討します。「教師が教えることと子どもが学んでいることとのずれ」に焦点をあてて考えていきます。

「わくわくファシリテーション」を体験しよう



さまざまな話し合いの場面でファシリテーション(facilitation)の考え方や技法を使うと、参加者が意見を言いやすくなるので、確かな成果が得られるようになります。本講義では「わくわくファシリテーション」を実際に体験し、学校生活での実践を目指します。

学校と教師の仕事



学校と教師の仕事は、新しい未来の世代を育むという点において社会的にとっても大切です。本講義では、日本や海外の学校の例を取り上げながら、子どもたちが自分たちの未来を自分たちの手で創造していくための教育への新しい挑戦を見てもらい、これからの学校と教師の仕事について考えます。

文学部
総合人文学科
心理学専修

繊細な性格の心理学

10代はさまざまなことを気にする年代です。そして、気にしすぎる繊細な性格を、心理学では HSP といいます。本講義では「怒っている人が怖い」「友だちの顔色をうかがってしまう」「匂いや音などに敏感」などの繊細さと、対処法を考えていきましょう。

文学部
総合人文学科
表象文化専修

アートはなぜ必要か？

3年生

2020年、ドイツの文化大臣が「アーティストは私たちの生命維持に不可欠な存在だ」と述べ、コロナ禍で生活に困窮するアーティストに大規模な支援を行って大きな話題になりました。本講義では、古今東西の名作の数々を通してアートが人や社会に果たしてきた役割を振り返り、皆さんとこの言葉の意味を考えます。

〈9月～3月出講不可〉

クリスマス市とカーニバルに行く

世界史

ヨーロッパでのキリスト教の祝祭は、非キリスト教徒である私たちにとって、非常に興味深いものです。起源や暦の話とともに、写真などを見ながら、実際にはどのような雰囲気であるのかを、ドイツを例にして紹介します。

文学部
総合人文学科
アジア文化専修

中国を知り、日本を知る

ことばの背後にある文化的脈絡について研究しています。「蕭条」という言葉があります。「さみしい」という意味です。なぜ「蕭」にくさかんむり、「条」に「木」の字があるのでしょうか。中国で生まれたことばが日本でどのように受け入れられたのか、考えます。